

平成25年度全九州高等学校体育大会 第56回全九州高等学校登山競技大会 予報

佐賀県の山

佐賀県は九州の西北部に位置し、北は玄海灘、南は有明海という全く異なった二つの海に面しています。また、北東部は福岡県に、南西部は長崎県と接しており、それぞれ脊振山系並びに多良山系の山々を連ね、県境を形成しています。

佐賀県の地形は、大別すると①脊振山・天山山塊地域(脊振山地)、②多良岳火山地域、③西部丘陵地域、④東松浦高原地域、⑤佐賀平野地域、⑥島嶼地域の六つに分けることができますが、この内④⑤⑥では、目立った山はほとんど見ることはできません。

6年前に2007青春佐賀総体では、①の地域の九千部山・脊振山山系を、唐津湾を臨む浮嶽山系で開催しましたが、今回は③の西部丘陵地域から八幡岳山系を、①の地域から佐賀県域第三の高峰、天山をもつ天山山系で開催を試みました。今回のコースのほとんどが九州自然歩道を縦走しています。

八幡岳山系

西部丘陵地域はJR唐津線から西方に広がる地域で、第三紀層とこれを貫く火山岩からできていて、高原的な平坦な地域に鐘状あるいは台形状の山が突き出た地域がよく見られ

ます。はちまんだけ八幡岳(763.6m)のほかに、くろかみやま焼き物の里・有田や伊万里の背後に黒髪山(516m)があり、

せいらさん青螺山(618m)、まきのやま牧ノ山(552.6m)が連なっています。山頂には何本ものアンテナが林立し、遠くからでもすぐそれだと分かります。ここも九州自然歩道のルートが通っており、山頂からの展望は素晴らしく、山頂近くの歩道沿いにはオオキツネノカミソリの群落があり、7月下旬の開花期の光景は見事なものです。

大会二日目となる7月6日、幕営地である多久高校をバスで出発し、縦走のスタート地点である桃川親水公園に移動します。男子隊、女子隊ともにメイン行動となり、それぞれ隊を整え、松浦川沿いに南下します。川を渡り、498号線を横断し、宮地岳神社の境内を横切り、杉並木を抜けると、美しい田園風景が広がります。しばらく歩くと、車道にでて、T字路を左折し、牛舎横を通り、100mで右折します。樹林を通ると、再び舗装された道

路に出て、道路沿いに歩き、右折します。杉の樹林帯を歩き、しばらく行くと眉山キャンプ場に到着します。今回は登頂しませんが、フルーツ畑が豊富な眉山には、獅鬼退治の伝説があり、獅鬼が猛牛になって住んでいたという岩場があります。キャンプ場をでて眉山との分岐は、右方向に進み、崩落箇所(コースが直っているとうれしいのですが)を過ぎ、眉山から降りてきた登山道に合流したら、一気の下りとなります。いくらか分岐を過ぎ、

車道に出て、また登山道に入ると、川内峠^{かわちとうげ}に到着する。川内峠を過ぎしばらく登山道を登ると、林道に出ます。林道沿いにしばらく進み、八幡岳への最後の登りが目の前に現れます。これを地道に登り、オオキツネノカミソリの群落を目にしだすと、しばらくして車道に出ます。車道にでたら下らずに、左手にルートを取り、奥にある八幡岳の山頂を目指します。この山は古地図には「日鼓山」または「日包山」と記されていましたが、平安時代の武将源為義の第八子である鎮西八郎為朝が源氏の武神である八幡宮を勧請し、この山頂に八幡大菩薩の石碑を祭ったことから、次第にこの山は八幡岳と呼ばれるようになったと言われています。山頂を過ぎると、車道を 300m ぐらい進み、途中から登山道を下ると、ゴールである八幡岳キャンプ場に到着します。

天山山系

脊振山地の南西には、天山山地があり、主峰・天山^{てんざん} (1,046.2m) を中心に彦岳^{ひこだけ} (845.3m)、作礼山^{さくれいざん} (887.1m) 等があります。天山は県域第三の高峰で、佐賀県の中央部にあって、佐賀平野からはどっしりとした安定感のある山容を見ることができます。東西に延びるなだらかな稜線は、九州自然歩道のルートにもなっていて、天候に恵まれば、快適な尾根歩きを楽しむことができます。

大会三日目となる 7 月 7 日は、幕営地である多久高校をバスで出発し、縦走のスタート地点である岸川ダム登山口に向かいます。男子隊はメイン行動ですが、七曲峠^{ななまがりとうげ}からサブ行動に切り替えます。女子隊は終日サブ行動となります。しばらくは、棚田とみかん畑を左に見ながら谷間の車道を歩くことになるが、この道も九州自然歩道です。車道が今出川と出会うところから右折し、登山道を登ることになります。ここから急登となりますので、全パーティは気合を入れ、登ってください。このコースは、20 数年前は国体県予選の特区コースだったと記憶しています。舗装された林道が 2 カ所ほど登山道を横断していますが、迷うことはないと思います。山頂付近には一面ミヤコザサに覆われています。また、松や杉などの樹木が見られます。やがて右にあめ山 (996m)、左に天山を示す大きな標識のある鞍部にでます。ここから 10 分ぐらいで天山山頂に到着します。山頂一帯は草原になっていて展望がよく、北は玄界灘から南は佐賀平野、有明海まで、佐賀県のほぼ全域を見渡すことができます。西には二日目に登る八幡岳や船山、北に脊振山系の山々、空気が澄んでいるときには、長崎県の雲仙岳や熊本県の阿蘇山も見ることができます。また、山頂には南北朝時代の武将足利尊氏に、筑前多々良浜の戦で敗れた阿蘇八郎惟直の墓碑が祀られてい

ます。天山の尾根には春から秋までイナカギクやタンナトリカブトなどが変化に富んだ彩りをみせ、多くの登山客の目を楽しませてくれます。平坦な草原を約1kmあまり行くとところどころで急な岩場の道も出てきます。注意して下ってください。その後、美しい樹林帯の道となる階段状の道を下ると七曲峠しやくたいごえに着きます。七曲峠は、別名石体越えともいわれ、九州自然歩道は、この後北方向に進路を変えます。大会では東進して、支線歩道である彦岳に向かいます。男子隊はここからサブ行動となります。木道の急な階段がしばらく続きます。ノツゲなどが多い灌木帯が現れるとだらだらとした道に代わり、屏風岩びょうぶいわに着きます。屏風岩はコース上にある唯一の岩場で、簡単に登ることができ展望も優れています、屏風岩を超え、しばらく行くと眼前に彦岳が見え、いったん下りの道となりますが、植林をぬけるとしだいに登りとなり、周囲にアオキの群生が目立ってきて、最後に急坂を上りきると彦岳に着きます。山頂はせまく視界があまり良くありません。彦岳からさらに東方向に下り、しばらく行くと清水から古湯に抜ける県道44号線に出会います。その地点がゴールとなる白坂峠しらさかとうげです。

下記のアドレスは、今大会とほぼ同じコースを歩かれた方の記録がWeb上にありました。参考になるかと思います。

リンクフリーでしたので記載しました。

http://www.geocities.jp/osmioty/kns_sg/kns403/momonokawa-bannsyo_1.html

こちらは、本人の了解を得ました。

<http://blog.goo.ne.jp/taku6100/e/5a2d664810bd9129556e5f13f46eb7d7>